

会長挨拶

～第20回全国学校飼育動物研究大会の開催にあたって～

鳩貝 太郎



全国学校飼育動物研究大会は、今回で20回目の節目を迎えることができました。これまで本研究会を支えていただいた会員の皆様、ご支援いただきました文部科学省，日本獣医師会，東京都教育庁，東京都獣医師会，日本小動物獣医師会，各種団体の皆様に心より感謝申し上げます。

本研究会は平成16年（2004年）7月に、学校での動物飼育に関する調査研究を進めていた教員や研究者たちと、専門的な立場から学校での動物飼育を支援してくれていた獣医師さんたちが中心になり発足いたしました。本研究会の初代会長である宮下英雄先生は、最初の研究大会の挨拶で「動物飼育を通して命を実感させ、情愛豊かな子供を育てたい」と訴えられました。これまでの研究大会では、この趣旨や願いを生かした素晴らしい実践研究や示唆に富んだ講演などが行われ、発表者や参加者との意見交換，交流を進めてきました。

全国各地の獣医師さんたちは、動物飼育に不慣れな学校や幼稚園，保育園の先生方を丁寧にしかも粘り強くご指導，ご支援いただき，屋外の飼育舎での動物飼育だけでなく，校舎内でのケ

ージなどでの小動物飼育の実践も行われてきました。特に獣医師さんたちの先頭に立って奮闘されてきた故中川美穂子先生の活躍を忘れることはできません。本日，本研究大会に参加された方々には中川先生に薫陶を受けた方がたくさんいらっしゃると思います。改めて中川先生のご冥福をお祈りするとともに心より感謝申し上げたいと思います。

近年，鳥インフルエンザの発生などの影響や学校の先生方の働き方改革の影響などで，学校での小動物飼育は大変厳しい状況になってきています。我が国の特徴ともいえる子どもたちによる動物飼育を継続している学校が大幅に減少している状況にあります。

そのため，子どもたちは，生きている動物との交流体験が無く，命の大切さを実感できないまま，映像の中での間接体験で命の大切さや生き物同士のつながりなどを分かったつもりになっている可能性があります。現在の子どもたちを取り巻く状況を考えると，先ほどご紹介しました宮下先生の挨拶の趣旨に沿った教育を推進することが，より一層重要になってきているのではないかと思います。

教育基本法第二条の「教育の目標」には，その一つとして「生命を尊び，自然を大切にし，環境の保全に寄与する態度を養うこと」と明記されています。また，2020年度から小学校では新学習指導要領による教育がスタートします。教育の目標の一つである「生命を尊ぶ」態度を育むためには，継続的な動物飼育の体験の中で生き物についていろいろなことを自ら学び，課題を解決すること，子どもどうしで学び合うこと，さらには獣医師さんなどの専

門家から学ぶことなどの「より深い学び」を追求していくことが求められています。

そこで、この度開催する第20回の記念すべき研究大会の大会テーマを「学校で動物を飼うことの意味を改めて考える」と設定しました。

シンポジウムではシンポジストの皆様から、新学習指導要領での学校飼育動物の位置づけ⁰²⁻⁰¹、安全と安心を確保した適正な動物飼育の在り方、保護者や地域の皆さんなどと連携した飼育管理の方策などについての提案・報告などをいただき、学校で動物を飼うことの必要性について参加者の皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

口頭発表、ポスター発表では、動物飼育活動に関する実践研究や調査結果などについて発表いただき、ご参加いただいた皆さんとの質疑応答、意見交換を活発に行えるようにいたしまし

た。

また、群馬県獣医師会の皆さんの指導を受けて小動物との触れ合い体験ができるコーナーも設けてあります。皆さん自身が動物との触れ合い体験を行い、獣医師さんから動物について学べる貴重な機会にできるだろうと思います。

研究大会の開催は午後だけの短時間ですが、充実した有意義な時間が過ごせるように準備しました。研究大会に参加した皆さんどうしが親しく交流でき、学び合える場になることを願っております。

これからも本研究会の活動にご理解をいただき、実践研究の推進と交流などにご参加、ご協力いただけるようお願い申し上げます。

(本会会長／国立教育政策研究所名誉所員
／首都大学東京客員教授)